

A—45 幼児の食生活に関する研究（第1報）  
—僻村における栄養摂取状況と体位（夏季）—

県立新潟女短大 ○岡田 玲子  
渋谷 歌子

1. 成長発育期の栄養摂取状況に関する研究は乳児期および学童期については詳細になされているが、幼児期については僅かの報告に接するにすぎない。それで幼児

の栄養摂取に関する資料に乏しく、したがって栄養指導上の基準が得がたい現状である。そこで著者らは幼児の栄養摂取状況に関する系統的研究の一端として、まず僻村の幼児の食生活を調査し、その実態を把握して栄養指導上の一指針としたいと考えた。今回は新潟県某山村の幼児の栄養摂取状況と体位との関連性について検討した。

2. 対象部落の幼児（1.5～5才）25名と、長じての影響をみるために学童（6～9才）20名について、本年7月の3日間の食餌摂取状況を個人別秤量方式により調査した。これによって得た各人の栄養摂取量を個々の体位より算出せる所要量並びに日本人の年令別所要量と対比し、更に体位指数との相関、および世帯の栄養摂取状況との相関を求めた。

3. 1) 栄養摂取量の年令別所要量に対する比率は熱量79%、蛋白質74%、脂肪84%、Ca 69%、鉄97%、V.A 23%、V.B<sub>1</sub> 49%、V.B<sub>2</sub> 54%、V.C 54%で、全般に低い。2) 動蛋比は30.3%で、動蛋比と体位指数とは正の相関を示した。3) 食品群別摂取状況をみると植物性食品に偏重しており、牛乳および乳製品は殆んどの対象が摂取しておらず、使用食品の種類は小範囲に限定している。4) 世帯の栄養摂取状況の良否は幼児のそれにかかなりの影響を及ぼしている。